

2023年7月18日

各位

雪印メグミルク株式会社

第14回定時株主総会の質疑応答要旨

当社は、2023年6月28日に開催した第14回定時株主総会の質疑応答要旨を自社ホームページに掲載することと致しました。掲載する内容は、株主総会の議事・議案に係りのある事項を基本とし、適宜整理・要約させていただいております。

Q1

雪印メグミルクらしさを発揮した経営について、戦略を明確にしてください。

A1

当社は「健土健民」という創業の精神を受け継ぎ、雪印メグミルクらしさと将来の成長を実現するため、中期経営計画2025を着実に遂行し、株主の皆様の期待に応えていきます。

Q2

海外戦略について明確に示してください。

A2

当社の海外戦略は3つの柱（育児用粉ミルク、チーズ事業、機能性素材）があります。このうちチーズ事業については、既にオーストラリアとインドネシアで工場を3か所稼働しており、機能性素材の販売については、現在、アメリカ、韓国を中心としています。今後はアジア全体に販路を拡大したいと考えています。そのために、シンガポールに現地法人を設立しておりますので、今後の海外展開にご期待ください。

Q3

商品開発に関し原料、品質、技術等への自負や戦略について説明してください。

A3

当社は「ミルクにこだわる」ことを使命として商品開発に取り組んでいます。我々の商品開発の方針は、「需要創造型商品」と「高付加価値型商品」の2つを開発することです。中期経営計画2025では新たな取組みとして、乳製品製造で培った技術を応用し、プラントベースフードに関する商品開発に取り組みます。また、健康寿命の延伸、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目指し、特定保健用食品、機能性表示食品制度を活用していきます。

Q4

株価上昇に向けての取組みについて説明してください。

A4

株価上昇のためには、株主の皆様、投資家の皆様に当社株式を評価していただけるような成長の姿を示すことが必要です。このような考え方のもと、中期経営計画2025の事業戦略および基盤戦略を着実に実行することにより経営の強靱性を獲得し、企業価値を向上させるよう取り組みます。

Q5

2025年に創業100周年を迎えるにあたっての取組みを聞かせてください。

A5

昨年12月に社長直轄のプロジェクトを立ち上げ、関連した様々な施策を検討中です。ステークホルダーの皆様へ感謝を伝えるとともに、当社がどのような方向を目指し、どのような姿になっていくのかを示せるような企画を考えていきます。

Q6

女性役員の登用について聞かせてください。

A6

当社は2015年に女性活躍推進を掲げ、女性役員の母集団の育成に努めてきました。以来、女性の管理職比率は5パーセント増えており、役員候補となる所属長クラスの人員も着実に増やしているところです。今年度、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）推進プロジェクトを立ち上げ、全社的に女性の活躍を促し、女性役員候補を育成することに力を入れていきます。具体的な事例として、本年4月に女性の工場長が誕生しました。

Q7

社長就任1年の総括と中期経営計画2025に対する決意を聞かせてください。

A7

今年1年、酪農乳業を取り巻く環境は目まぐるしい変化があり、就任後、ロシアによるウクライナ侵攻が発生し、資源・エネルギー価格の高騰等、更に厳しい状態になりました。このような制約の中で様々なところに足を運び、ステークホルダーの皆様と対話を続ける中で、100年の歴史をもつ当社に対する期待の大きさを感じました。今、世界的に食料の安全保障が社会課題となっている中で、我々が「健土健民」の創業精神のもとに、食の持続性という役割を果たすことが期待されていると実感しています。まずは中期経営計画に基づき、骨子であるプラントベースフード事業への参入、ジョイントベンチャーの設立や、シンガポ

ールの現地法人の設立、弘前大学との共同研究講座開設等、しっかりと蒔いたタネを育成させることが大切だと考えています。100年間で築き上げたミルクバリューチェーン※をしっかりと活用し、食の持続性を実現し、企業価値の増大を目指していきます。

※ミルクバリューチェーン：酪農乳業を原点として広がる、当社グループの幅広い知見や機能を表す当社グループ独自の表現です。

以上